

# まほろば



2019.8  
第216号

## 第17回北東北国立病院医療研究発表会

青森病院、八戸病院、盛岡病院、秋田病院、松丘保養園、当院合同による第17回北東北国立病院医療研究発表会が7月27日(土曜日)、当院で開催されました。今回も多職種から計55の演題登録をいただきました。中でも今後、当院において中心的役割を担うことが期待される2次救急の疾患を取り上げ、コメンテーターとして矢口慎也弘前大学救急災害医学講座助教に参加していただき、貴重なご意見、アドバイスをいただきました。当院初期研修医である沈由剛先生は橈骨遠位端粉碎骨折について、古米健吾先生は胆のう結石について、杉本里奈先生は高カルシウム血症について、高山綾先生は間質性肺炎について、東彩子先生は腎盂腎炎からの敗血症について発表されました。転倒骨折、腹痛、発熱、嘔気、腰痛といった日常よく遭遇する症候で受診されており、臨床診断学、病態解析に基づく治療法の選択、関連する文献検索も含め、経験を通してよく学ばれておりました。このような経験の積み上げは、必ずや将来の診療に生かされることと思います。矢口先生は、初療の際、呼吸数を記録することの重要性を強調されておりましたので、今後の診療に反映させたいと思っております。

当院における救急医療の現状については、高齢者が多く、重複する疾患も多いことが特徴です。今回の演題においても、複雑な病態を順序だてて解析し、治療方針の優先度を図る必要があるということも改めて感じておる次第です。専門分野を中心とした縦割りの診療には当てはまらないことが多く、教育、人材育成、環境整備に対する取り組みがますます求められることと思います。本研究会を教育・連携の場として継続するため、引き続き皆様方のご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

臨床研究部長：石黒 陽



# 学校祭

令和元年度の学校祭は 95 人が来場し、学生全員の協力のおかげで楽しい 2 日間になりました。

準備期間は確認不足や学生間のコミュニケーション不足で何度も変更があり大変な日々でしたが、先輩からアドバイスを頂くことで無事に当日を迎えられました。新メニューや講堂での新しい企画に挑戦したので不安はありましたが、来校者

の方々や学生が笑顔でいるのを見ると、準備期間の大変な思いは吹き飛び、私も安心して楽しむことができました。

学校祭全体を通して楽しむだけでなく、来校者の方々をおもてなしすることで多くの学びがありました。今年の反省は来年度に活かし、より魅力的な学校祭にしていきたいです。

2学年：川口 伶菜



## 新人看護師フィジカルアセスメント研修 救急蘇生を学び、実践に活かす

この研修は、集合研修で BLS 研修を受講後、各部署でも実践できることを目的とし、各部署で実施する研修です。病棟では夜間を想定し意識喪失した患者を新人看護師が発見、先輩看護師へ応援要請し、医師への報告、ご家族への連絡、BLS の実施・二次救命処置までの切迫した状況下を想定し、シミュレーションをしました。

研修では各科の医師・研修医に参加・協力して頂き、より実践に近い環境で報告から指示受け、救急処置の介助も体験します。新人看護師は「とても緊張したが、緊急時には目の前の患者さんを全力で助けられるように今日の学びを活かしたい」と話し、適切で迅速な対応と患者・ご家族への配慮を振り返り、確認する機会としました。

新人研修に関心を持ってご協力頂いた医師・研修医の皆様には感謝いたします。今後も新人看護師が現場での看護実践能力を伸ばし成長できるように支援していきたいと思えます。

教育担当看護師長：秋元 美穂子

患者の状態を的確に医師へ報告



集合研修 (BLS 研修) の学びを的確に実施



医師と共に迅速な対応



医師の動きをみながら気管内挿管介助



医師からのアドバイス



# 『未来の仲間を期待して』

7月25日(木)に、青森県立弘前南高校2年生10名の生徒さん方をお迎えし、職場訪問を実施しました。初々しい高校生の笑顔に我々職員一同癒され、心温まる時間を過ごす事ができました。

国民の4人に一人が75歳以上の後期高齢者となる、超高齢化社会が到来すると言われる2025年問題。その影響を大きく受けるとされている医療界は、その若い世代の労働力をいかに取り込んでいく

かが課題とされています。AIが進化し大きな変化が期待される中、最後はやはり人の温かさが求められると考えています。今の若い世代の方々が夢と希望をもって進んでもらえるよう魅力ある職場環境を整えていく必要性を感じました。今後の皆様の活躍を期待し、将来共に働ける事を願っております。

副看護部長：黒澤 みゆき



## 研修医便り

研修医1年目の佐藤英太郎です。私は今年度の1年目の研修医の中で最初に大学病院での研修をしました。国立病院での研修に少しずつ慣れてきたところでの環境の変化に、最初は緊張と不安を抱いていました。しかし大学病院での2か月間は大変有意義なものでした。循環器内科では患者さんの入院管理を自分自身が主体になって行いました。救急科では急性期の患者さんの治療と多くの手技を実践することができました。この2か月間で医師として一回り成長することができたと考えています。

研修と勉強に追われる日々ですが、私は自分の趣味も全力で楽しんでいます。野球が大好きな私は、プロ野球の試合を何度も見に行ったり、医局野球に参加し国立病院の先輩方と練習もしています。大学の後輩たちと話せる機会が多いのも、弘前で研修しているからこそです。これからも研修と趣味の二刀流に全力を尽くし、医師として人間として成長していきたいと考えています。



臨床研修医：佐藤 英太郎

# 外来診療一覽

## ◆外来医師診療一覽表 (令和元年8月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	横田貴志
呼吸器内科		中川英之	山本勝丸	中川英之	山本勝丸	中川英之
		山本勝丸	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子
		下山亜矢子	田中佳人	田中佳人	-	田中佳人
		-	石岡佳子	-	-	-
消化器・血液内科		松木明彦	相原智之	相原智之	松木明彦	相原智之
		山口公平	間山恒	松木明彦	間山恒	山口公平
		佐藤年信	千葉裕樹	佐藤年信	山下覚	佐藤年信
		石黒陽	石黒陽	千葉裕樹	石黒陽	石黒陽
	午後 血液内科のみ	間山恒	山口公平	間山恒	山口公平	-
脳神経内科		廣畑美枝	清野祐輔	-	清野祐輔	清野祐輔
小児科		杉本和彦	佐藤工	敦賀和志	佐藤工	杉本和彦
		敦賀和志	松本麻希	佐藤啓	杉田梓	佐藤啓
		杉田梓	藤岡彩夏	藤岡彩夏	松本麻希	藤岡彩夏
外科		柴田滋	内田知顕	柴田滋	内田知顕	三上勝也
		-	堤伸二	堤伸二	堤伸二	-
乳腺外科		小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅
整形外科	午前	岩崎宏貴	秋元博之	秋元博之	中村吉秀	秋元博之
		藤田有紀	中村吉秀	岩崎宏貴	藤田有紀	中村吉秀
		猿賀達郎	藤田有紀	猿賀達郎	-	岩崎宏貴
脳神経外科		-	-	木村正英	-	-
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行
		佐藤正憲	熊野高行	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲
	午後	● 予約	● 手術/検査	● 予約	● 手術/検査	● 予約
泌尿器科	午前	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨
	午後	検査	検査	手術	検査	手術
産婦人科		飯野香理	金森正紘	松村由紀子	● 妊婦健診 (一般外来休診)	飯野香理
		松村由紀子	丹藤伴江	丹藤伴江	-	追切裕江
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		西澤尚徳	西澤尚徳	西澤尚徳	西澤尚徳	西澤尚徳
		工藤玲子	松下景	-	-	-
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
		-	-	-	飯田沙野	-
	治療	-	-	川口英夫(午後)	-	川口英夫(午後)
女性専用外来		杉本菜穂子(※予約制/第1・第3水曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		-	-	-	休診	-

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。  
 ※ セカンドオピニオン外来は当分の間休診となります。

## 今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

まほろばの 青雲高し 津軽富士

(石沢)

病床に 祝言の報 傷和む

(ムラマサ)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

### 患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

## お知らせ

### 編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital  
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：副院長 小田桐 弘 毅

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地  
TEL 0172-32-4311  
FAX 0172-33-8614  
URL <http://www.aoi-mori.net/~hirosaki/>